

Frontline Report

官民一体で描く、AI共創時代の未来図 —「GenAI/SUM 2025」現地レポート

10月6～8日、九段会館テラスで開催された日本経済新聞社主催の「GenAI/SUM 2025」には、登壇陣に日本の実務プレイヤーがずらりと並んだ。デジタル庁などの省庁、メガバンクや大手証券・保険まで産官学が一堂に会し、“使うAIから任せるAI”への現実解を議論した。基調講演では平将明デジタル大臣が、日本のAI戦略を提示。ソブリンAI(国家主導で、データ・計算資源・モデル運用を自国の法域と統治下に置くAIシステム)や、ワット・ビット連携(電力とデータの統合設計)といった国策レベルのテーマを掲げ、公共・産業双方での実装条件を示した。

サミット全体においては、「AI共創時代」というテーマが通底していた。単なる業務代替ではなく、AIが計画・実行・検証を担う“高次の役割”へと進み、人間は新しい価値の発見や意思決定に集中する。そのような役割分担の事例や構想が多くのセッションで共有された。”創造性(クリエイティビティ)”も再定義されつつある。既存知を探索・結合・要約する結合型のクリエイティビティはAIが急速に肩代わりしつつある一方、発想を拡げ・捻り・飛ばす変形型のクリエイティビティは人間の独自領域として、一段の鍛錬が求められる。

人材育成も喫緊の課題だ。初級業務をAIに置き換えるほど、若手が入門から専門へ至る“修練の梯子(キャリアパス)”



が細くなるリスクがある。会場では、AI支援を前提としたOJT設計、プロンプト/エージェント設計のリテラシ、データガバナンスの実務、そしてドメイン知識×AIを体系化する育成カリキュラムが議論されたほか、評価指標やスキル標準の整備についても共有された。

本サミットでは、日本のAI実装が安全性や電力などの現実条件と、共創・人材という戦略条件の多層構造で進むことが示された。政府はインフラを整え、産業はユースケースを磨き、個人はクリエイティビティを鍛える。この連動を継続的にアップデートし、人間とAIの共創を設計していける組織が、未来の競争力を獲得していくのだろう。

日経クロステックの「Vibe Coding」特集にCTCコメント掲載

日経クロステックが、生成AIに指示して開発を進める「Vibe Coding」を特集。CTC金融NEXT企画部のコメントも紹介され、実装現場でのAI活用が本格化しつつある流れが示された。一方で、信頼性・セキュリティ・監督責任などのガバナンス課題は依然大きく、要件定義から運用設計まで伴走できるSIerへのニーズは今後も高いだろう。

金融業務能力検定に「生成AI」領域新設—2026年配信開始見込み

一般社団法人 金融財政事情研究会提供の金融業務能力検定に「生成AI」試験が新設される。2026年1月頃から配信予定で、全国のテストセンターで受験可能。基礎知識、リスク・関連法令、プロンプト設計など実務直結の内容で構成。教材制作にCTCエンジニアもAI専門家として参画。現場で求められるスキル習得を後押しする。

Product Spotlight

DynamoAI社の「軽快ガードレール」で、AIセキュリティ実装の現実解を目指す

生成AIやAIエージェントの業務への浸透に伴い、AIのセキュリティやガバナンスへの注目が一段と高まっている。特に課題視されるのが、実運用上のガードレール導入の負担だ。ガードレールとは、AIの入出力をチェックし、不適切な指示や個人情報の漏洩を防ぐ安全柵を指す。これをシンプルに実装すると「入力チェック⇒推論本体⇒出力チェック」の三段階でLLMを使うことになり、コスト増加やレイテンシ悪化を招く。

このボトルネックを解決する手段として、DynamoAI社のAIガードレール「Dynamo Guard」に注目している。Dynamo Guardは、CPUでも動作可能な軽量言語モデル(SLM: Small Language Model)で実装されており、高スループットと低コストを両立。PII(個人情報)検知、有害入出力の遮断、ハルシネーション抑制を統合的に適用し、

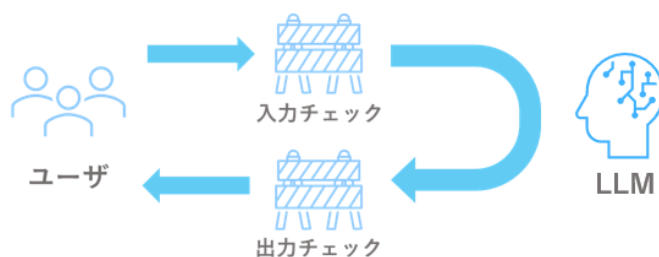
検知／遮断などのアクションを設定できる。

このソリューションはモデル非依存・環境非依存を掲げており、OpenAI／Anthropic等の主要クラウドはもちろんローカルLLMにも同一ポリシーを横断的に適用可能。ポリシーは日本語を含む自然言語により定義可能で、利用状況可視化・監査ログまで含めて運用ガバナンスを強化する。

導入は既存アプリやAIサービスからAPIで呼び出すだけ。組織の方針に合わせて、効果と負荷を確かめながら適用範囲を段階的に拡張できる。

CTCは、DynamoAI社とモデル非依存の軽快かつ統合的なAIセキュリティ実装を推進することで、業務スピードを落とさずに安全性と運用性の両立を目指す。

AIガードレールの課題(コスト増とレイテンシ悪化)



Market Pulse



Rank	Model	Score	Org.
1	claude-sonnet-4-5-20250929-thinking-32k	1453	Anthropic
1	gemini-2.5-Pro	1452	Google
1	claude-opus-4-1-20250805-thinking-16k	1449	Anthropic
1	claude-sonnet-4-5-20250929	1439	Anthropic

Claude4.5がランキングを席巻

ユーザ投票によるLLM性能評価ランキング「LM Arena Leaderboard」を、9月29日に発表されたAnthropic社のClaude4.5シリーズが席巻。Google社のgemini-2.5-ProはRank1に踏みとどまったが、OpenAI社のGPT勢は軒並みランクダウンした。【2025.10.4時点】

Crossroad

営業本部長 × Copilot

金融NEXT営業本部長
阿部 健太郎 氏

最近、毎日30分はCopilotと壁打ちしています。前はWebで探していた情報も、要約し



て教えてくれるので、面談の下準備が段違いに速くなりました。英文メールも、翻訳や下書きまでできるので助かっています。会議など、記録や要約はAIに任せて、人はお客様と前向きな関係を作ることに集中するべきです。

若手もベテランも、まずはちょっとしたことからAIで業務を効率化してください。遠慮することはありません。AIを仕事のスピードと質を上げる相棒にしていきたいですね！



無限の未来と、幾千のテクノロジーをつなぐ。

CTC Financial Services Group



CTC金融事業グループの最新情報は
オウンドメディアサイトへ！

<https://financial.ctc-g.co.jp/>



お問い合わせ

CTC
Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ
金融事業グループ金融NEXT企画部

✉ fsgnext-biz-dev@ctc-g.co.jp